

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176502845		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・清河寺2		
所在地	埼玉県さいたま市西区清河寺1195-1		
自己評価作成日	平成28年9月23日	評価結果市町村受理日	平成28年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	さいたま市中央区下落合5丁目10番5号		
訪問調査日	平成28年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月季節に合わせた全体イベントと利用者様の誕生日やおやつ作り等のフロアイベントを行っている。今年も近隣の施設の夏祭りに参加したり、こちらの秋祭りにお誘いし、交流を続けさせて頂いている。今年の夏から庭を利用して野菜作りを始め、ご利用者様と収穫したり、食卓やおやつに提供させて頂き、楽しんで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者職員が日々笑顔で過ごすために、利用者やゆっくり関わり、たくさん話をする事に努められたり、利用者の残存能力にも目を向け、現状が維持できるように支援をされている。また、ホーム長はチーム力を向上させ、職員の可能性を広げるために、個々の職員の強みを活かすことが大切と考え、そのための方法を検討されている。
- ・ご家族のアンケートでも、「個人的なお願ひもよく聞いて、対応してくれます」、「よく話しかけてくれ、構ってくれるのがいい」などのコメントが寄せられ、職員への感謝と事業所での暮らしに安心している様子が伺える。
- ・目標達成計画については、地域に根付いた事業所を目指し、ボランティア活動の一覧表を参考にしたり、挨拶に何うなど具体的な取り組み方法を継続的に検討されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をフロア入口に掲示し、皆がきちんと確認できるようにしている。	職員は事業所を、「第2のわが家」として家庭的に過ごしてほしいと願い、利用者一人ひとりに合った介護方法や支援方法が実践できるように取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	他事業所施設のお祭りに参加している。	地域に根付いた事業所を目指し、地域との交流をもっと深める方法を検討されている。ホーム長が就任されたばかりのこともあり、近隣へご挨拶かたがた、事業所の取り組みや活動状況をお知らせし、ふれあいの機会を広げることを目標とされている。	近隣への挨拶をきっかけに、ボランティアの受け入れや地域の方を事業所に招いたり、地域の行事に積極的に参加をされるなど、より密な交流が築かれることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への支援の方法など、積極的に地域の方に発信することはないが、ホームの見学等は随時受け入れている。また認知症についてご家族様からの相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度程のペースで家族会・運営推進会議を開催し、報告や話し合いをしている。	家族会と一緒に2ヶ月に1回開催され、家族からは利用者の笑顔が増えたと喜びの声が寄せられている。今後も継続して行政や自治会長へ参加を呼びかけ、助言や地域の情報を頂き、運営に反映させたいと考えられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との連絡はあまり取れていないが、何かあった際は地域包括センターや医療連携室と連絡を図るようにしている。	行政からは研修案内を頂いたり、看取りの相談にもっていただいている。今後は運営推進会議の議事録を持参し、事業所の取り組みや現状をもっと知ってもらい、連携や協力関係の構築を課題とされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては毎月職員会議で話合いや、マニュアルの確認を行っている。	否定的な言葉は使わず、行動を抑制しないように努められている。認知症の周辺症状も何か意味があることと捉え、安全に過ごしていただくケア方法をコア会議や職員会議で話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会はありませんが、社内アンケートを行い注意を図ったり、ヒヤリはっと報告書などに項目を置き、虐待防止についての意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は社内研修等で学ぶ機会を持ち、出来る限り活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居時や退居時にホーム長から十分な説明を行い、ご理解・納得いただいた上で書類に署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会の際、ご家族様とお話する機会を設け、意見や要望を伺い運営に反映させている。	利用者にはよく話しかけ、要望にはできる限り応えられるように努められている。家族からの、歩けなくなったら困る、他者に迷惑な行動をとるようになったらどうしよう？など心配ごとにも耳を傾けられ、職員間で話し合いの機会を持たれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・職員会議の際、職員の意見や提案を聞くようにしている。	リハリのある毎日を過ごしていただくために、様々なイベントが企画されている。事業所の畑で取れたサツマイモで焼き芋作り、お祭りや運動会などの提案はマンネリ化しないような内容で、利用者に楽しんでいただいている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度人事評価を行い、個々の状況把握に努め、やりがいを感ぜられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修がある際は研修内容を掲示し、好きな研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修やフロア長研修などの社内研修は定期的に行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時にご本人様から、困っている事、不安な事を伺っている。(入院時は病院のスタッフなどからもお聞きしている)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時にご家族様から困っている事、不安な事を伺っている。実態調査時に不在の場合は入居時に伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時と入居時にご家族様から希望や要望を聞き、必要なサービスを利用できるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	積極的に話を伺い信頼関係を築き、職員と楽しみながら一緒に家事を行うなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご家族様とお話し、ご利用者様の状況を共有することで、職員と共に利用者様を支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外にもご家族様了承のもと仲良くされていた方などがいつでも来られる様にしている。	昔、一緒に山登りをした友人が訪ねて来られたり、手紙のやり取りやご家族の協力で知人と会われる利用者もおられたり、利用者の特技を活かすなど、これまで続けてこられた趣味や習慣が継続できるように支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様で楽しめるようなレクリエーションやフロアイベントを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから積極的に行う事はないが、ご家族様等からご連絡があった場合は相談、支援を行えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成する際、ご本人様の意向を伺っている。困難な場合はご本人様らしく過ごせるよう日常生活の中から情報収集しアセスメントに努めている。	利用者と良好な関係を築くために、職員は常に、「ありがとう」、「ごめんなさい」を心に留めた対応を心掛けている。また、職員間で情報を共有し、一人ひとりの意向や思いを把握することに努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の際、ご本人様・ご家族様から生活歴や馴染みの暮らし等をお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族様やご本人様からお話を伺い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議の際、職員同士で話し合い、その方に合ったケアに関して意見交換を行ったりアイデアを出し合ったりしている。	利用者や家族の意向を確認し、囲碁や洋裁など好きなことができることに目を向けた介護計画が作成され、一人ひとりの目標や支援方法が明確に記入されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や連絡ノートを活用し、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の通院介助や他サービスの利用(訪問看護やマッサージ等)など出来る範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前と比べて少なくなっているが、ボランティアをお呼びして楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホーム(訪問診療医)だけではなく、入居前からついていた医療機関も利用していただき、通院時にはホームでの近況を書面にしたものをもちいただくようにしている。	昔馴染みの病院へ通院される利用者には、日々の状態が記入された一覧表を持参され、主治医からの連絡や報告は、連絡ノートや通院報告書で職員間の共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問され、その際異変があった時は報告・相談を行っている。訪問レポート等も活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は最低週1回程度はお見舞いに伺うようにしている。又、地域連携室と連絡を図り、きちんと情報交換等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は終末期に向けた話し合いは行われていないが、重度化した場合はご家族様と話し合い、事業所で出来る事をやっている。	可能な限り看取り支援を行うためには、チームケアに向けた体制作りが大切と認識をされている。また、研修で職員の知識を高め、他施設や他病院への紹介も含め、連携を図りたいと取り組み方法を検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	期間はあいているが、消防隊による救急訓練を実施しているが、職員の実践力の差はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。 (日中想定と夜間想定を分けて行っている)	火災を想定した避難訓練が実施され、消防署からいただいた助言をもとに、職員全員が適切な避難誘導が行えるように取り組まれている。また、水害地域に認定されていることから、洪水や土砂災害に備えた対策が検討されている。	災害発生はいつ発生するかわかりません。職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、地域の方の協力を得ながら災害への取り組み方を検証されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った、プライバシーや人権を損ねない言葉掛けを行っている。	利用者の生活歴を大切にし、共感の気持ちで接している。利用者一人ひとりのペースを崩さないように接し、選択肢を示し自己決定ができるように支援をされている。また、排泄や入浴時にはさり気なく対応し、プライバシーにも注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意思を尊重し、出来るだけ自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、個々のペースでその人らしく生活出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にご本人に選んで頂いている。またイベントやお出かけの日などおしゃれをしていただけるよう服装を変えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きをしていただいたり、一緒におやつ作りをしていただいたりしている。	利用者一人ひとりの食事形態の一覧表が作成されている。できるだけ季節のものを取り入れ、焼き芋やホットケーキ、お好み焼き作りなどを楽しまれている。パンが食べたいと希望される利用者には常にパンが用意され、要望に応えられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて食事形態を変えている。必要に応じて水分チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・介助を行っている。異変時は訪問歯科医・歯科衛生士に相談し、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみてお手洗いへご案内し、なるべく排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう努めている。	失禁が多かった利用者も、職員のコマメな誘導で失敗が少なくなり、家族からも喜ばれている。利用者の心身状態から、職員2人対応で対応される利用者もおられ、また、乳製品など食物繊維で適切な排便コントロールが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	皆様と簡単な運動をし腸の動きを良くし自然な排泄が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人に声掛けを行い、その日の気分や体調に合わせて入浴している。	浴室と脱衣所の温度差にも配慮し、季節湯や好みの入浴剤を使いながら入浴を楽しまれている。リフト浴も用意されていて、利用者の身体状態に応じて、安全にリラックスした入浴を支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を決めず、ご本人に合った生活を送れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更があった場合は、薬剤師から注意事項を伺い、異変があった場合はすぐに薬剤師に連絡をとり、指示を仰いでいる。(血圧測定及び記録など)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前から趣味としているものやお手伝いなどご本人様に合わせた楽しみを見つけ、提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と協力し、外出したり外泊する機会を設けている。	事業所の環境から外出が困難な状況ではあるが、花を摘んだり、木の芽を眺めながら、畑周辺の散歩や桜見物など、季節の移ろいを感じていただけるように努められている。また、駐車場のベンチに腰をかけて歌を口ずさみ、利用者が生き生きとなることが、職員の喜びにもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームでお預かりしているが、希望があれば必要なものは職員が購入させていただいている。また訪問販売の導入をしお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話をしたり、知り合いの方に手紙を出したりされる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のレクリエーションの写真を飾ったり、温度や湿度調節を行うことにより不快感無く生活できるようにしている。	すっきりとした明るいリビングで、外出時やイベント時の写真や利用者の絵が飾られている。掃除も行き届き、テーブルや入り口には花が飾られ、心を和ませてくれる心地よい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、レクリエーションをしたり、その人に合った座席の工夫をし居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が昔から使用していた物や寝具、好みの物をご家族様と相談しながら居室へ置いたりする事により、心地の良い環境作りをしている。	転倒予防のための環境整備、ポスターや自身で描いた絵を飾るなど「自分の部屋」として居心地の良い暮らしができるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて介助させて頂く事はあるが、できるだけご自分で出来る様、安全に留意しながら見守るようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームみんなの家・清河寺2

目標達成計画

作成日:平成 28年 11月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域交流を行い、安全性のあるホームの実現をめざす。	地域の福祉事業所へのあいさつ。	来年度の秋まつりに対して、協力して頂ける様に説明を行う。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。